

琉球大学学術リポジトリ

白菜と甘藍の優良新品種

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 友寄, 長重, Tomoyose, Choju メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20666

白菜と甘藍の優良新品種

■ 結球白菜

結球白菜は最近では優良品種が次々と導入され、栽培技術の向上と相まって一般的に栽培されるようになった。沖縄では12月から6月まで島産ものが市場に出廻るようになってきているが、2月が最盛期で、その時期には単価は著しく下落して、1キロ当たり5セントほどになる。12月から1月にかけて単価の高い時期に出荷するためには優良な早生の品種を選ばなければなりません。次に近年内地で育成された品種について述べます。

長岡交配60日

タキイ種苗会社育成の一代雑種で、形がよく揃っている。文字どおり生育日数60日で成熟し、よくしまった球重約1.8キロくらいの玉になる。葉色は濃く、葉面にちぢみがある。外葉も玉も小型であるから、畦巾60cm、株間45cmに密植できる。輸送力も大きい。

栃 光

一昨年栃木県農試から発表されたもので、発表と同時に全日本原種コンクールで一等、大臣賞を獲得した。ウイルス病およびナンプ病に対する抵抗性の強い早生種の一代雑種で、生育約65日である。葉色は濃く、球重2.2キロ前後で、よく揃い、よくしまる。

野崎交配2号

昭和32年から野崎採種場で発表販売し始めた早生種で生育日数約60日である。ナンプ病、ウイルス病にも相当強く、球重は2.5キロ程度で、よくしまり、多収品種である。

松島交配6号、松島交配新6号

渡辺採種場の育成品種で、両品種とも球重は2キロくらいである。生育日数は6号が60~65日で、新6号は65~70くらいかゝる。新6号は6号の性能をさらに高めた一代雑種である。

岐阜交配早生みどり、岐阜交配昇竜

両種共岐阜農試で育成された一代雑種である。前者は生育日数55日位の極早生種で、球重2キロぐらいで

ある。しかし、収穫をおくらせると球重は増加する。後者は生育日数70日のやや大型で、球重は2.5~2.8キロになる。

■ 甘 藍

島産キヤベツは11月から6月にかけて市場に出廻るが、3、4月が最盛期で、この時期には戦前大量に内地に出荷されていたが、現在でも多少出荷されている。価格は11月の始めにはキロ当たり25セント程の高値をよぶが、4月には2セント台を下回ることが多い。白菜と同様早期出荷することも考えるべきである。次に、最近注目されている品種をあげてみよう。

長岡交配秋播早生

タキイ種苗会社より売り出され、昭和31年には全日本原種コンクールで大臣賞を得ている。本種の大きな特長は耐暑性、高温結球性がたいそう強く、平均気温29℃、日中34℃の盛夏にも高温障害がなく、適湿さえ当れば正常に近い生育と結球をとげることである。従来、高温期栽培の唯一の最適品種といわれていた葉深よりは、耐暑性、高温結球性をはじめ、球形、球重、球のしまりはいずれもまさり、その上5~10日早熟であり、品質は同じ程度に良好である。長岡交配秋播中早生、長岡交配早生と共に高温期栽培にきわめて好適する。育苗期間約40日、本葉8~9枚で定植すると、定植後約2月余で収穫となる。収穫可能期間はだいたい2週間、だから半月ごとに播種すれば、連続して出荷することができる。

長岡交配秋播中早生

早生と中性の中間型で、長岡交配秋播早生によく似るが、外葉の大きさ、外葉数、球の大きさとも一まわり大きい。高温結球性、耐暑性も秋播早生に次いで大きい。

長岡交配早生

本種は前2者よりも耐暑性が強く、30℃までは結球を順調に行い、しかも秋播早生よりも5日余り早くとれる。

(友 寄 長 重)